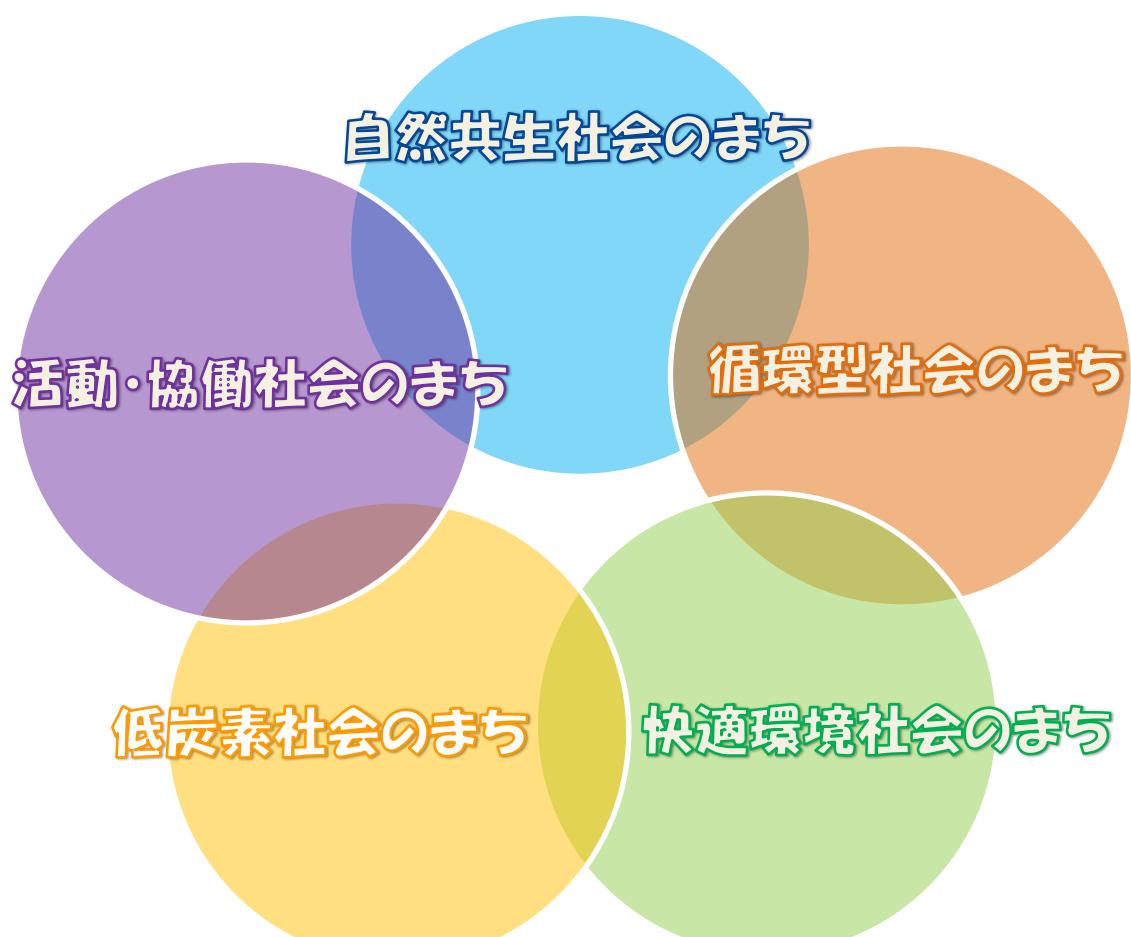


令和3年度

富良野市環境白書

～ふらのの魅力を支える環境と共生するまちをめざして～



富 良 野 市

計画を進めるにあたって

計画の取組を進めるためには、現在、環境がどのような状態にあるのかを知ることが大切です。

そのため、計画では、環境の状況を知るための「ものさし」となる環境指標や、各環境施策の数値目標を設定し、定期的にその達成状況や変化を把握することにより計画を効果的に進めます。

この「富良野市環境白書」では、数値目標に対する達成度合いや各年度の取り組み状況などをわかりやすく記載しました。

また、この環境指標・数値目標については、計画の進捗段階において必要に応じて見直しや追加をしていきます。

目 次

基本目標1 自然共生社会のまち

①水環境の保全	1
②持続可能な農地の保全と活用	3
③森林の保全と育成	4
④野生動物との共生と保護活動の推進	5

基本目標2 循環型社会のまち

⑤ごみの減量化・リサイクル対策の継続的な推進	6
------------------------	---

基本目標3 快適環境社会のまち

⑥魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成	7
⑦良好な大気環境の維持	8
⑧騒音・振動及び悪臭の防止	9

基本目標4 低炭素社会のまち

⑨地球温暖化対策等の推進と実践	10
⑩資源・エネルギーの有効利用と実践	11

基本目標5 活動・協働社会のまち

⑪市民、事業者、市の協働による自主的な活動の推進	12
⑫幅広い世代への環境教育・環境学習の推進	13
⑬環境情報の共有化	13

自然共生社会のまち

①水環境の保全

家庭からの生活排水や工場・事業所からの排水による河川や地下水の水質汚濁を防ぎ、また市内を流れる自然河川を保全・維持することで、本来の河川が備えている水の浄化機能を高め、市民が健やかに暮らし、多くの生物がみられる水環境を目指します。さらに、市内河川は、水道水源等として利用される空知川水系の上流域に位置することを鑑みて、流域全体の保全を進めます。

水質汚濁の代表的な指標であるBODは、環境基準点で基準内

■ BOD※の環境基準適合状況

河川名	環境基準点	調査結果							環境基準 (mg/l)	
		前回			今回					
		測定日	天候	水温 (℃)	BOD (mg/l)	測定日	天候	水温 (℃)	BOD (mg/l)	
勇振川	勇振川橋	H29.9.6	晴れ	18.5	1.1	R1.7.30	曇り	20.4	1.0	—
西達布川	古潭橋			17.7	0.9			22.0	0.9	1.0
	おもと橋			14.3	0.6			18.5	0.7	1.0
無頭川	学田橋			21.8	1.5			22.2	2.7	—
ペペレイ川	中央橋			14.5	0.7			20.1	0.8	—
富良野川	シャトーふらの橋			16.0	1.1			21.0	1.1	—
北2線川	水車川橋			19.8	1.6			24.2	1.5	—
基線川	市道北の峰5線との交差			18.6	2.6			21.9	1.8	—
北1号川	新光橋			14.4	1.1			14.8	1.1	—
空知川	富良野大橋	H30.9.19	晴れ	14.7	0.8	R2.7.20	晴れ	21.3	0.8	2.0
	布部大橋			16.0	0.7			21.9	1.1	2.0
	平和橋			15.5	0.7			24.0	1.1	2.0
	山部橋			15.1	0.7			24.5	1.1	2.0
	布部川			12.5	0.6			20.1	0.8	—
	白鳥川			11.1	0.6			15.4	0.9	—
	布礼別川			13.1	0.5			20.7	1.3	—
	八線川			15.0	1.1			21.5	1.2	—

(資料) 主要河川水質調査より

※空知川、西達布川のみ環境基準値が設定されています。

※BOD（生物化学的酸素要求量）とは、微生物が水中の有機物を生物学的に酸化・分解するために必要な酸素量のことで、数値が高くなるほど汚濁していることを示します。



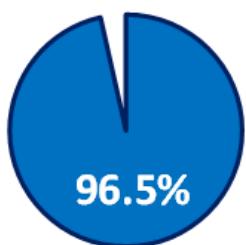
自然共生社会のまち

①水環境の保全

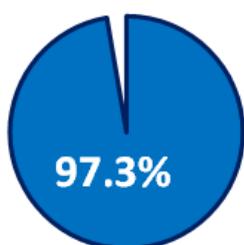
家庭からの生活排水や工場・事業所からの排水による河川や地下水の水質汚濁を防ぎ、また市内を流れる自然河川を保全・維持することで、本来の河川が備えている水の浄化機能を高め、市民が健やかに暮らし、多くの生物がみられる水環境を目指します。さらに、市内河川は、水道水源等として利用される空知川水系の上流域に位置することを鑑みて、流域全体の保全を進めます。

富良野地区と山部地区における 水洗化率※は 96.5% (+0.3%)

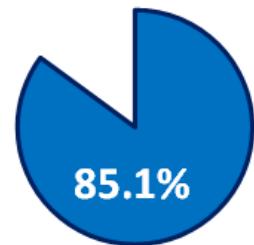
全域



富良野地区



山部地区



(資料) 上下水道課より

	令和元年度末	
	処理区域人口	水洗化人口
富良野地区	15,869人	15,404人
山部地区	1,153人	979人
全域	17,022人	16,383人

令和2年度末	
処理区域人口	水洗化人口
15,550人	15,131人
1,121人	954人
16,671人	16,085人

※下水道が配管されている処理区域において、下水道に接続している割合

	令和元年度末	
	人口	世帯
下水道処理	16,383	8,470
浄化槽処理	2,690	1,314
その他処理	2,157	939
合計	21,230	10,723

令和2年度末	
人口	世帯
16,085	8,370
2,741	1,314
1,970	952
20,796	10,636

◆令和2年度の具体的な取組み

- 主要河川水質調査の実施
- 水洗化促進の市 HP 更新
- 環境展で汚水処理 PR
- 空知川水系 2 級河川（5 河川）の草刈りの実施（富良野市道路河川愛護会）
- 現地河川で採取した玉石からフトン籠を作成し、護岸の修繕に使用



自然共生社会のまち

②持続可能な農地の保全と活用

健全で持続可能な農業を発展させることで、生物の生存基盤としての土壤環境を保全するとともに、保水機能や景観形成など様々な機能の維持・向上を目指します。さらに、本市の基幹産業の一つである農業について、地球温暖化対策や資源・エネルギー対策等を進めることで、環境に配慮した付加価値の高い農業生産活動を推進し、農業の振興を図ります。

市内の GAP 認証を受けている農場件数

8農場(目標値:R5 年度 14 農場)

	H29	H30	R1	R2
GAP 認証 農場件数	6	7	8	11

(資料) 農林課より

令和 5 年度までに

14 農場を目標にしています。

GAP (Good Agricultural Practice) は「農業生産工程管理」「良い農業のやり方」等と訳されており、農場での数多くの作業や生産環境のうち安全を確保するためのポイントをまとめたもので、生産者はポイント（基準表）に基づいて作業を行います。従来の「結果管理に基づく品質保証」に対して「生産工程管理に基づく品質保証」であり、安全を確保する様々な対策を講じることにより危険性を最小限にする予防型の取組みです。

GAP に取り組むメリットとして以下の効果があげられます。

- ①的確な安全管理～危害要因の排除、農産物の安全性の確保（産地の信頼）
- ②適正な栽培管理～農産物の品質向上
- ③農作業の効率化～農業経営の改善
- ④リスク管理～問題発生時の原因の特定と事後の証明が可能

以上のことから、富良野市では特に第三者認証による GAP の普及を進めています。

◆令和 2 年度の具体的な取組み

- ・環境保全型農業直接支援対策事業[※]で13名の農業者の取組みを支援
- ・農村の多面的機能の維持増進に向け、地域共同による維持管理及び農村環境の資源向上活動を支援（6地区）
- ・メイド・イン・フラノ認定事業（新規9商品、計61商品）



※環境保全型農業直接支援対策事業とは、化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組とセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む場合に支援を行います。

MADE IN FURANO とは ~市が地元食材にこだわった加工品の独自認定制度~

豊かな農産物とこだわりの飲食店、観光地ならではの加工品が揃うここ富良野で、もっとたくさんの、美味しい『MADE IN FURANO（富良野産）』を味わってもらいたい…。食に関わるすべての人の思いをひとつにすることを目的に、平成 28 年度よりスタートした取組みが『MADE IN FURANO』です。食の原点である畑から、お客様に提供するサービスの場までをひとつなぎとし、自慢の味にストーリーを添えて、味わうすべてのお客様へ本当に美味しい富良野を届けます。市が地元食材にこだわった加工品の独自の認定制度は平成 30 年度から始まり、13 事業者の 61 商品が認定されています。メイド・イン・フラノ初の商談会を開催しバイヤーに商品を PR する取組みを行っています。

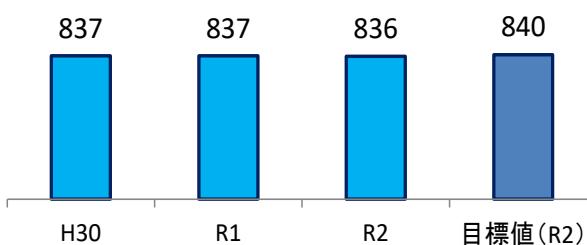


自然共生社会のまち

③森林の保全と育成

本市は、市総面積の約70%が森林を占め、森林面積の所有別内訳は、国有林34%、民有林のうち東京大学演習林53%、その他民有林13%で構成されています。森林は、水源かん養、水質の浄化、自然災害の防止、土壤保全、野生生物の生息地、木材等の物質生産などの多様な機能を有しており、特に本市の基幹産業である農業や観光業と深い関わりのある森林の保水機能や景観形成機能を保全するとともに、地球温暖化の緩和機能（二酸化炭素の吸収・固定機能）を高めるための育成を進めます。

市有林面積 836ha



◆令和2年度の具体的な取組み

- 富良野市森林整備計画に基づき、民有林の造林54.41ha、除間伐20.24ha、下刈89.23haに対し助成
 - 担い手対策として17名に対して助成
- ※事業主に対し、作業員の就業日数に応じて福利厚生に係る経費を助成
- ※森林作業員に対し、作業員本人と事業主が積み立てた掛け金に、就業日数に応じ奨励金を交付
- 北海道と連携し、アスベスト鉱山跡地を確認

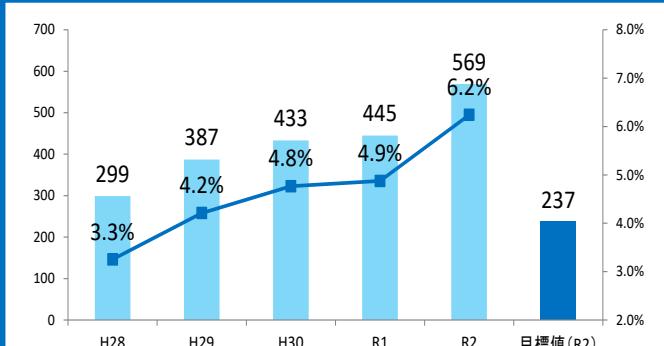


自然共生社会のまち

④野生生物との共生と保護活動の推進

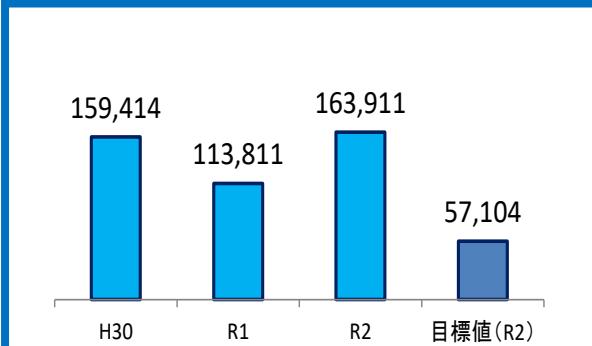
本市は、広大な森林、河川など野生生物が生息・生育する自然環境に恵まれており、貴重な動植物の保護・保全活動を推進するとともに、農林業に対するエゾシカ、ヒグマ等の鳥獣被害や、外来生物による生態系への影響に対処し、人と野生生物が共生できるまちを目指します。

野生鳥獣による被害面積 569ha (作付面積の 6.2%)



※被害面積と作付面積に対する被害面積の割合

野生鳥獣による被害額 163,911 千円

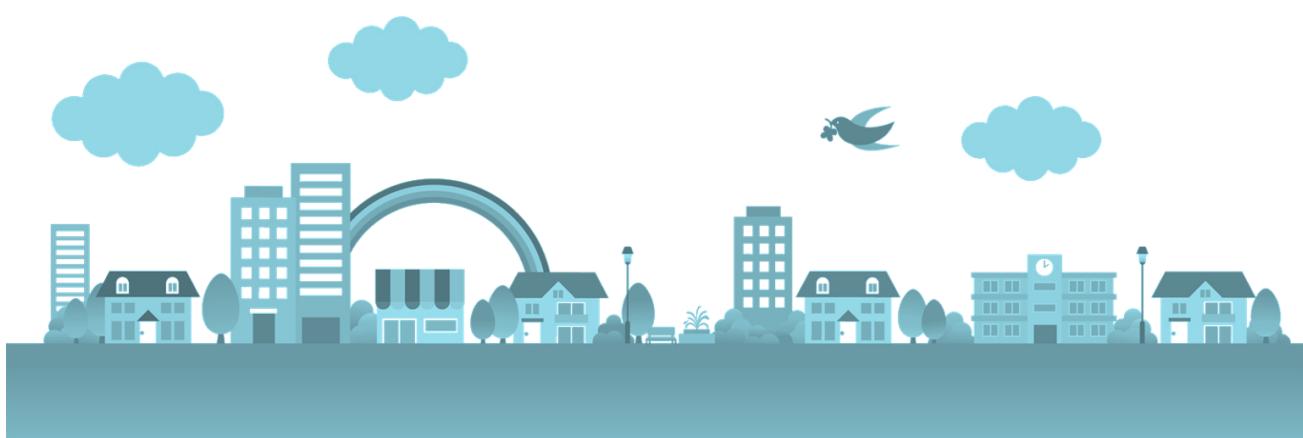


市民・事業者からの情報収集並びに提供
ヒグマ情報 32件 看板設置 9枚



◆令和2年度の具体的な取組み

- ・特定外来生物オオハンゴンソウの防除活動（2回 34名参加）
- ・ヒグマ 13頭、エゾシカ 832頭、アライグマ 147頭を捕獲

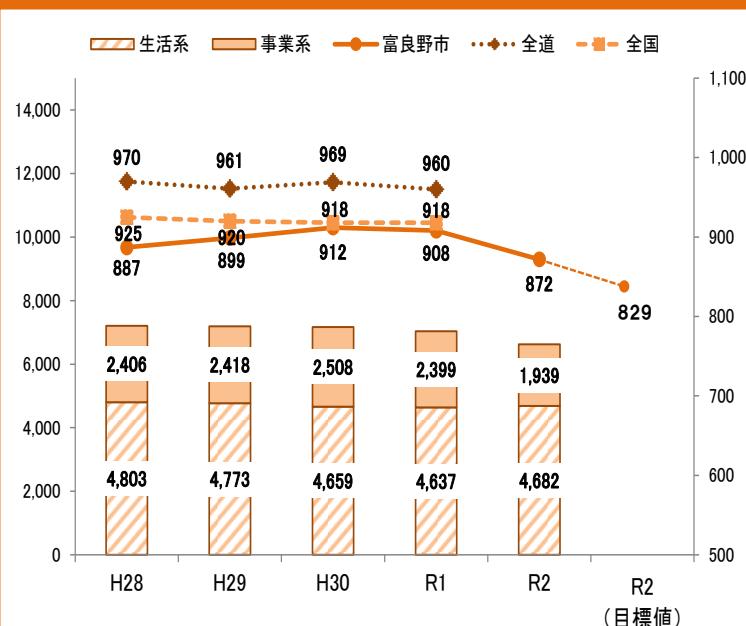


循環型社会のまち

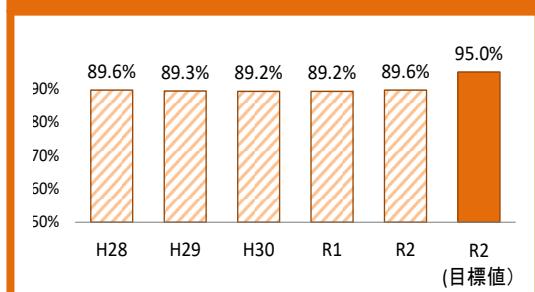
⑤ごみの減量化・リサイクル対策の継続的な推進

これからの中子高齢化や人口減少が進む社会の変遷に対応しながら、現在の廃棄物処理・資源循環システム（材質に応じた適切な資源化処理）を維持・継承し、さらなるごみの減量や資源の節約を実践するとともに、不法投棄やポイ捨て対策を進め、質の高い循環型社会のまちを目指します。

1人1日あたりのごみ排出量 872g/人・日



ごみの資源化率 89.6%



◆令和 2 年度の具体的な取組み

- ・ふらの環境展開催（9月11日～9月17日：参加団体8団体）
- ・リサイクルマーケット（月2回開催：計444名来場 販売枚数1,898枚）
- ・広域（近隣5市町村）で連携し、資源循環システムの維持に努め、高い資源化率を維持
- ・廃棄物の処理及びリサイクルの概要の作成
- ・広報を通じてごみ分別のQ & A等を周知

◆みんなができる取り組み

家庭からでるごみのうち、約30%が生ごみです。食材を無駄なく使う分だけ買ったり、
生ごみの水分をよく切ることで、ごみの減量化につながります。

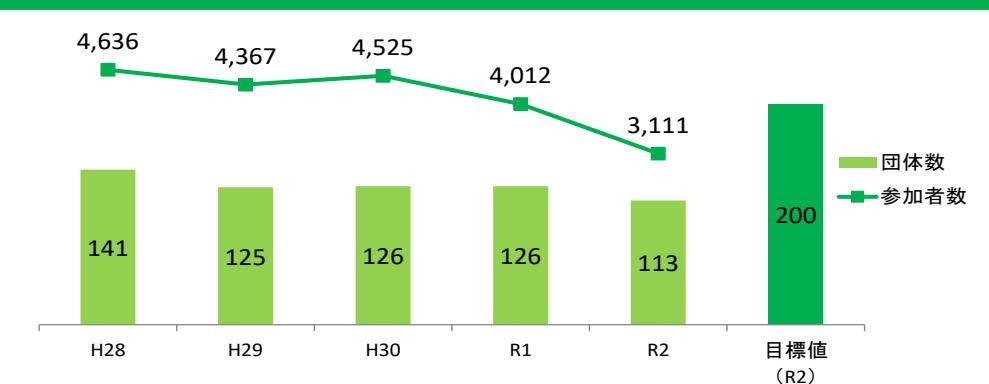


快適環境社会のまち

⑥魅力ある森林・農村景観の保全と 都市景観の形成

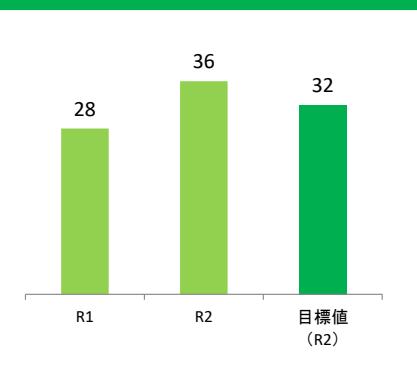
雄大で美しい大雪山系十勝岳連峰と夕張山地の山並みや、農業の営みの中で維持されてきた農村景観を保全するとともに、その景観と調和した美しい街並みと緑豊かな生活空間を有する都市景観を形成し、環境・観光資源としての魅力的な景観づくりを目指します。

春秋の環境美化運動の参加団体数 113団体 3,111名



※春・秋の環境美化運動以外にも各種団体による美化活動が実施されています。

公園修繕数 36公園



◆令和2年度の具体的な取組み

- ・富良野市景観審議会の開催
- ・中山間地域等直接支払交付金を活用した地域共同活動の実施（取組面積 2,000.5ha）
- ・長寿命化事業により遊具施設を整備（11公園）
- ・春・秋に環境美化運動を実施（113団体、3,111名参加）
- ・各種団体による美化活動の実施（14団体）
- ・各種団体による美化活動に対してごみ袋等の支援
- ・不法投棄パトロールの実施

快適環境社会のまち

⑦良好な大気環境の維持

本市は、清浄な空気を生み出す豊かな自然に恵まれ、且つ大気汚染の発生源（工場・事業場、自動車等）も少ないとことから、現状の大気環境に関する施策を継続的に推進し、良好な大気環境を維持します。

大気環境測定によるアスベスト（石綿）濃度は

全ての測定地点で問題なし

【令和2年度調査】

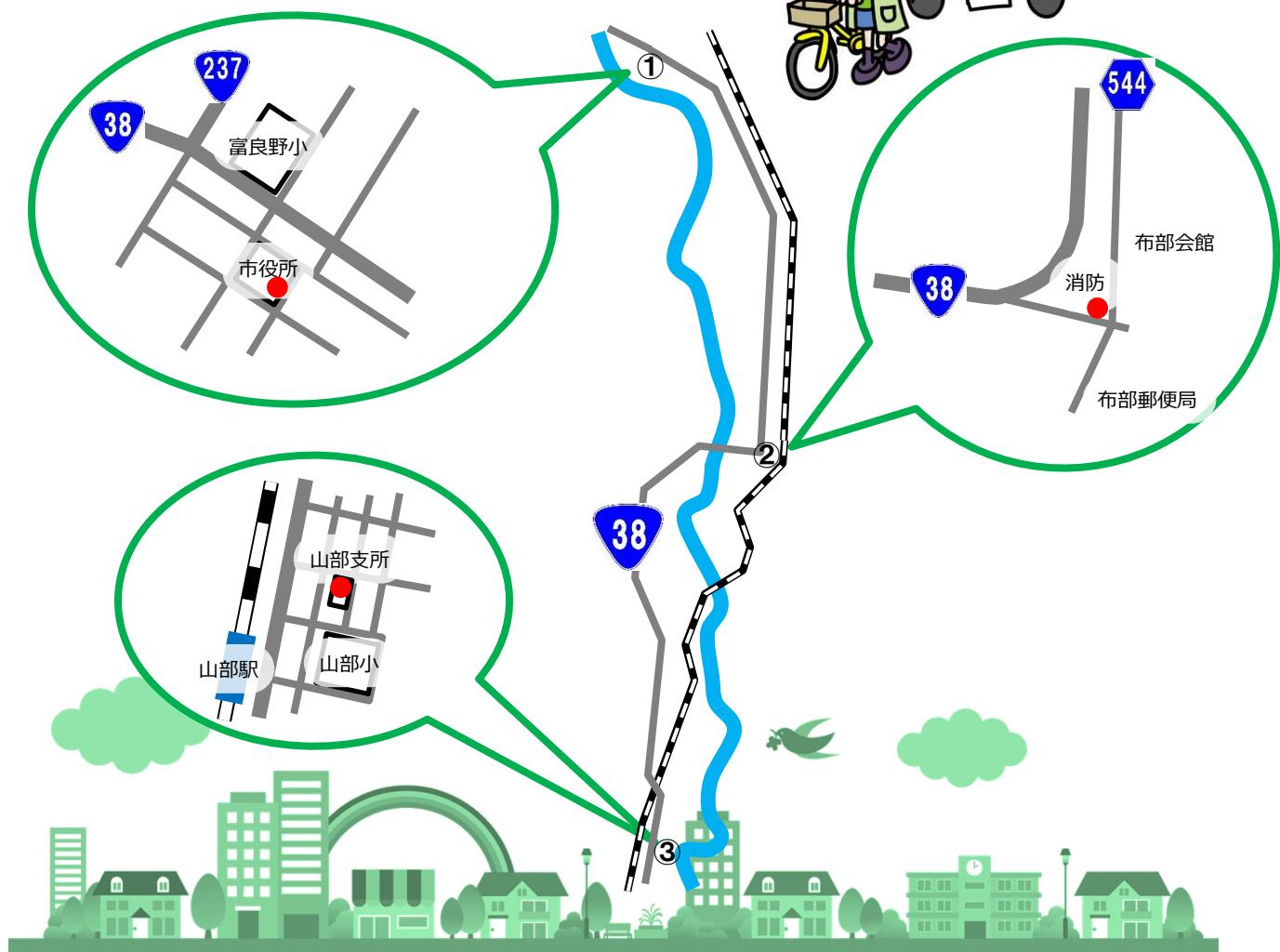
測定場所	石綿繊維数濃度幾何平均濃度 (本/ℓ)
①富良野市役所	0.1 未満
②布部消防付近	0.1 未満
③山部支所付近	0.1 未満

※環境基準値はありませんが、大気汚染防止法における、敷地境界線の濃度は 10 本/ℓ に定められています。

※この方法による測定の定量下限は 0.1 本/ℓ です。

◆令和2年度の具体的な取組み

- ・車に依存しない生活を実践するため、自転車歩行者道路を整備（東9条、南2丁目2、南3丁目2、東雲通、御料2線、山部23線、北5号、たちばな西線）
- ・北海道と連携し、アスベスト鉱山跡地確認
- ・大気環境測定調査を実施
- ・スパイクタイヤ等装着率調査の実施



快適環境社会のまち

⑧騒音・振動及び悪臭の防止

工場や事業場、建設作業等による騒音や振動、悪臭の対策を継続的に推進するとともに、近隣騒音等の日常生活の営みから発生する問題の低減を図ることで、静かで快適な暮らしやすいまちを目指します。

自動車騒音の実測値は全ての観測地点で 環境基準値以内

調査年	路線名	評価区間 の始点	評価区間 の終点	調査点	実測値 (dB)	環境基準値 (dB)
H28	市道 相生通線	日の出町 4 番 富良野駅前交差点付近	桂木町 3 番 富良野西中学校 交差点付近	朝日町 9 番 藤田サイクル付近	62	昼間時間帯 70
					51	夜間時間帯 65
H29	一般国道 38 号線	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	緑町 3 番 (公営住宅) 緑町 9 番付近	未広町 8 番 15 号 大塩畠店付近	66	昼間時間帯 70
					58	夜間時間帯 65
	一般国道 237 号線	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	花園町 花園橋前	本町 12 番 28 号 北炭販売富良野 営業所付近	65	昼間時間帯 70
					57	夜間時間帯 65
H30	一般国道 38 号線	学田三区 学田二線橋付近	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	北の峰町 29 番 KITCHEEN ここふら付近	67	昼間時間帯 70
					60	夜間時間帯 65
	道道 北の峰線 800 号線	北野峰 19 番 北の峰ターミナル 交差点付近	北の峰 35 番 北の峰セルフ給油所 交差点付近	北の峰町 32 番 北の峰児童館 交差点付近	62	昼間時間帯 70
					57	夜間時間帯 65
R1	一般国道 38 号線	緑町 3 番(公営住宅) 9 番付近	字西扇山 旭川開発建設部 富良野河川事業所付近	緑町 10 番 アグリランド付近	68	昼間時間帯 70
					60	夜間時間帯 65
	道道 山部北の峰線 985 号線	未広町 7 番 ふらの五条大橋入口	未広町 8 番 フラン・マルシェ付近 交差点	未広町 9 番 ワダテクノ付近	64	昼間時間帯 70
					56	夜間時間帯 65
R2	道道 奈江富良野線 759 号線	北斗町 13 番 シャトーふらの橋付近	桂木町 3 番 富良野西中学校 交差点付近	桂木町 4 番 交差点付近	61	昼間時間帯 70
					46	夜間時間帯 65
	道道 東山富良野 停車場線 253 号線	東町 2 番 富良野地区農業 共済組合交差点付近	日の出町 4 番 富良野駅前交差点付近	栄町 4 番 溝口洋服店付近	64	昼間時間帯 70
					50	夜間時間帯 65

自動車騒音調査は平成 24 年度から市で実施しています。8 路線を 5 年かけて調査します。

◆令和 2 年度の具体的な取組み

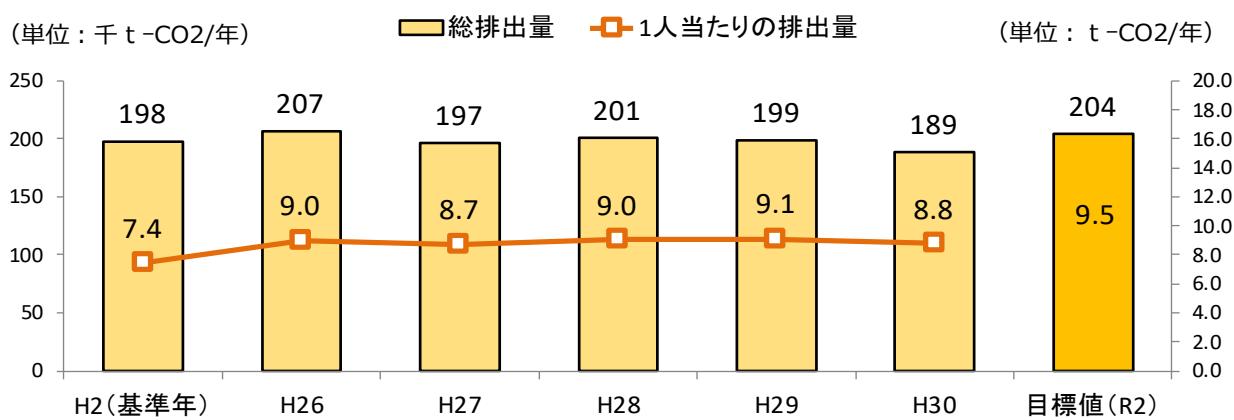
- 自動車騒音軽減を目的に道路を整備（東 9 条、南 2 丁目 2、南 3 丁目 2、東雲通、御料 2 線、山部 23 線、北 5 号、たちはな西線）
- 市道橋長寿命化事業（菖蒲橋、銀河橋、青潭橋）の修繕による歩車道の整備
- 自動車騒音調査を実施

低炭素社会のまち

⑨地球温暖化対策等の推進と実践

地球温暖化とその主要要因である温室効果ガス排出量の増大は、大気汚染や酸性雨、オゾン層破壊にも係わる現在の国際社会の主要な環境問題です。本市では地域の自然的・社会的特性を活かし、化石燃料の代替エネルギーの導入、木質バイオマスの利用、吸収源対策など多角的にこの問題に取り組んでいきます。

富良野市のCO₂総排出量は 前年度から約5%減少



(資料) 環境省 部門別CO₂排出量の現況推計より

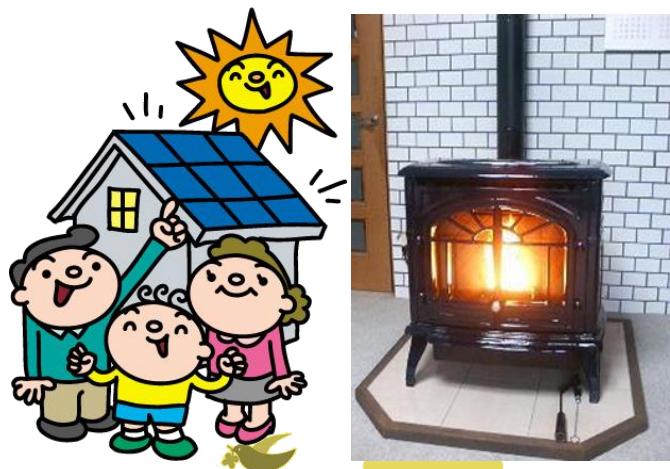
※より詳細な指標として、環境省で部門ごとに推計した値を引用しています。

※毎年修正等が行われているため昨年の環境白書と数値が変更になる場合があります。

うち工コ診断とは

各家庭のライフスタイルや地域特性に応じたきめ細かい診断・アドバイスを実施することにより効果的に二酸化炭素排出量の削減・抑制を推進していくための制度です。

環境省認定の「うち工コ診断士」がご家庭のエネルギー対策・地球温暖化対策を診断し、ご家庭に合わせたオーダーメイドの対策を提案します。

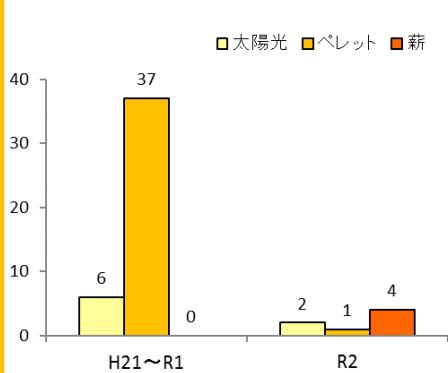


低炭素社会のまち

⑩資源・エネルギーの有効利用と実践

将来的に枯渇の危機が懸念される化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）への依存や地球温暖化への影響を低減した低炭素社会を実現していくため、有限な資源・エネルギーの有効利用を進めるとともに、再生可能なエネルギー利用への転換を目指します。

再生可能エネルギー導入 補助事業件数 7 件

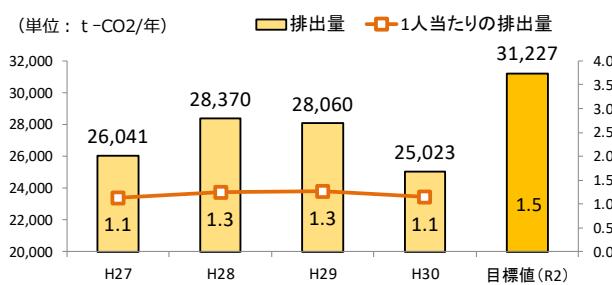


再生可能エネルギー導入補助事業による CO₂削減量 10,024 kg-CO₂/年

年月	太陽光	ペレット	薪	年月	太陽光	ペレット	薪
R2.4	304	77	0	R2.10	225	193	0
R2.5	353	0	0	R2.11	151	424	247
R2.6	285	0	0	R2.12	106	641	387
R2.7	364	0	0	R3.1	382	326	601
R2.8	317	0	0	R3.2	459	294	1,523
R2.9	269	0	0	R3.3	1,069	319	708
(単位: kg-CO ₂)		計	4,284	2,274	3,466		

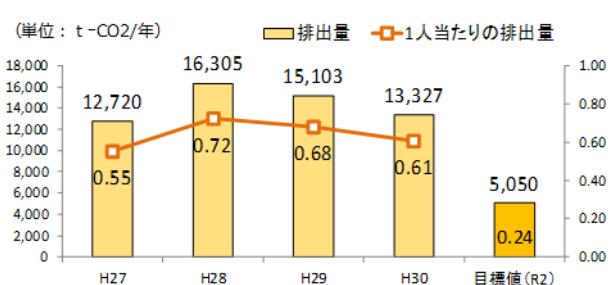
令和元年度、令和2年度補助事業者の利用状況報告を基に作成しています。

富良野市の灯油由来のCO₂排出量は 前年度から約11%減



※地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）に基づき、部門別に按分して再計算しています。
基礎数値については毎年見直しがされています。

富良野市の重油由来のCO₂排出量は 前年度から約12%減



※地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）に基づき、部門別に按分して再計算しています。
基礎数値については毎年見直しがされています。

◆令和2年度の具体的な取組み

- ・ペレットストーブ導入補助事業（1件 150,000 円）
- ・薪ストーブ導入補助事業（4件 302,000 円）
- ・太陽光発電システム導入補助事業（2件 300,000 円）
- ・小水力発電（白鳥川）の環境整備

活動・協働社会のまち

⑪市民、事業者、市の協働による 自主的な活動の推進

良好な環境づくりを推進するにあたっては、市、事業者、市民等が公平な役割分担のもとで、環境に配慮した行動を実践していく必要があります。また、富良野市は豊かな自然環境資源（且つ観光資源）を有するため、これら活動拠点を活かして、観光客や関連団体と協働した取組が必要です。そのため、市、事業者、市民等が参加し、自主的な活動を実践するまちを目指します。

◆令和2年度の具体的な取組み

- ・農業体験受入 7校 937人
- ・富良野自然塾の体験受入 延べ2, 197人
- ・富良野観光ウェブキャンペーン事業実行委員会による各種観光誘客キャンペーン事業
- ・ふらの市民環境会議の取組み
ふらの環境展 参加団体8団体
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会、施設見学会、フリーマーケットは中止)

◆富良野市における環境に関する条例など

- ・富良野市環境基本条例
- ・富良野市まちをきれいにする条例
- ・富良野市緑化推進条例
- ・富良野市景観条例
- ・富良野市自転車の放置防止に関する条例

【ふらの市民環境会議の主な取り組み】

ふらの環境展（令和2年度は展示のみ）



活動・協働社会のまち

⑫幅広い世代への環境教育・ 環境学習の推進

多様化する環境問題への理解の深化を図るため、家庭、学校、地域、企業や事業所などにおいて、生涯にわたる質の高い環境教育・環境学習を行い、環境施策を実践できる豊かな感性を持った人づくりを目指します。

**森林学習プログラム参加校 8 校
(目標値 15 校)**

◆令和 2 年度の具体的な取組み

- ・富良野自然塾での環境学習 1, 691 名
- ・小水力発電施設（白鳥川）での環境学習
- ・市内 5 校の小学校 5～6 年生が富良野自然塾のフィールドを活用して体験学習を実施（教員・児童 116 名）
- ・森林学習プログラム推進事業

※学習プログラムの実践及び森林学習サポーターの発掘・育成 実践校 8 校

※小中学校の総合的な学習の時間の支援 5 校 6 回

- ・保育所 2 園にて「食の探検隊」、「自然観察」、「農作物の育成から収穫、調理・会食」、幼稚園 2 園において「農場体験」、「自然散策」などを実施
- ・富良野の自然に親しむ集いの開催（7 回延べ 105 名）



⑬環境情報の共有化

市民、事業者、市等が連携して環境施策を推進していくためには、環境問題に対する関心の喚起、理解の深化を図ることが重要です。現代社会は情報技術の発展に伴い、多種多様な環境情報が提供されていますが、市民が生活し、事業者が事業活動を行う身近な地域の環境情報を共有化することで、環境意識の高いまちを目指します。

◆令和 2 年度の具体的な取組み

- ・廃棄物の処理及びリサイクルの概要の作成
- ・環境白書の作成
- ・ごみ分別アプリ
- ・環境審議会の開催
- ・毎月広報においてリサイクル掲示板、ごみ Q & A 等の掲載
- ・環境展などのイベント情報を広報やホームページ、ごみ分別アプリで周知



令和3年度富良野市環境白書
～ふらのの魅力を支える環境と共生するまちをめざして～
令和4年（2022年）3月発行

発行 富良野市

編集 富良野市市民生活部環境課

〒076-8555 富良野市弥生町1番1号

TEL 0167-39-2308

FAX 0167-23-1313

E-mail:kankyou-ka@city.furano.hokkaido.jp